

防災教育に係る生徒の主体的な取組例

【高校生ネットワーク BLOSSOM(高校生によるボランティア団体)】

■イベントタイトル：東日本大震災啓発イベント「めざせ！防災マスター」

- ・日時：2023年3月11日(土) 9:00～14:46
- ・場所：札幌市立開成小学校体育館
- ・主催：高校生ネットワーク BLOSSOM
- ・協力：元町まちづくり連合会、元町の未来へつなぐプロジェクト
- ・出展協力：NHK 札幌放送局、総務省北海道総合通信局、札幌市危機管理局

■目的・背景

東日本大震災発災から2023年で12年経過することで、現在の小中学生は震災当時の記憶がない世代となった。災害時の対策や防災の取組みも進化している一方、札幌では胆振東部地震から3年半経過し、災害の風化と防災知識の不足が進んでいると感じられる。

そこで、イベントを通じて札幌の小中学生に、当時の被災者の講演や防災に関する体験活動を通して東日本大震災について詳しく知る機会を提供することで災害の現実を理解してもらい、防災について楽しく学ぶことで継続的な防災意識の底上げを図る。また、お互いに隣接した地域が連携することで、地域内での世代を超えた防災ネットワークの構築を目指す。

■イベント内容

1. 講演について

【講師】北崎 春美(きたざき はるみ)さん

- ・東日本大震災当時17歳で被災。
- ・11日当日は仙台で被災、翌日に東松島市に戻るが内陸部の実家に2次避難。
- ・水が引いてから住んでいたアパートに戻るが、4月7日の最大余震後救出され約3ヶ月間の避難所生活を過ごす。

【ねらい】

- ・東日本大震災当時17歳で被災し、避難所運営をされた方の講演を聞くことにより、自助・共助・公助のあり方について学ぶとともに、避難所における「共助」をもとにした運営を考える。

2. ブースについて

【形式】スタンプラリー形式：カードを配布し、ゴールでは参加者ギフトを配布する。

【ブースの種類】

(1)アクティビティブース

防災について体を動かしながら体験できるブース。「防災グッズ借り物競争」と「担架リレー」を組み合わせたレースを2人1組で実施。様々なシルエットで書かれた防災グッズを見つけて、布と棒2本で担架を作りゴールする。

(2)クリエイティビティブース

新聞紙やペットボトルを用いて、災害時に役立つ便利グッズを、小学生が自分で作って持ち帰ることのできるブース。

(3)実験ブース

液状化、耐震化建造物のモデル実験を通し、災害関連のニュースなどで見る現象や対策について理解を深め、イメージを掴んでもらうブース。

(4)震災ギャラリーブース

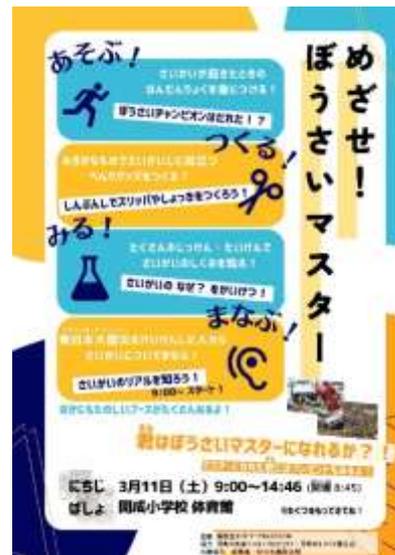
BLOSSOMにいつもアドバイスをくださっているカメラマンの方から提供していただいた震災当時の様子を写した写真展示ブース。

(5)NHK AR浸水体験ブース (NHKの協力)

「AR浸水体験」とは、実際に目で見て体験することのできるAR(拡張現実)機能を用いて、浸水による水害を体験できるブース。参加者に災害を視覚的に体験してもらい、「自分ごと化」するブース。

(6)総務省ブース

災害時に用いる災害対策用支援機材である無線機器の実機とパネルの展示ブース。



■【取組を終えて】

○講演：東日本大震災当時高校3年生で被災し、避難所運営をされた方の講演を通して、自助・共助・公助のあり方や、避難所の「共助」をもとにした運営について考えることができた。

○ブース：NHK 札幌放送局、総務省北海道総合通信局、札幌市危機管理局の方々にご協力いただき、参加者が災害を「自分ごと化」してもらえそうなブース運営ができた。

参加者や関係者からは、「防災の大切さについて認識できた」「震災や災害の恐ろしさについて分かりやすく知ることができた」など、多くの肯定的な意見をいただいた。今後も、様々な方に防災を身近に感じていただけるように、高校生にしかできない活動を行っていく。

